

編 集 に さ い し て

特殊鋼部会の討議は、毎回単一の課題を設け、主として、アンケートに対する解答の形式により資料を持寄り、集中的に検討して結論を導き、次の議題に移る方式で行ない、内容は、その都度取纏め委員間に配布されていた。

最近、新規に参加する会社も増えたので過去の実績を紹介し、また貴重な資料を私せず広く利用を願うため再度刊行する機運が現われていた。たまたま時を同じくして日本鉄鋼協会では鉄鋼技術共同研究会の研究報告書を、八幡製鉄渡辺記念資金によつて「鉄と鋼」の増刊号として刊行する企画があり部会としても喜んでその企画に参加することとなつた。当時製鋼部会鑄型分科会の資料取纏めが進んでおり、当部会はこれに続いて刊行することになり、至急未着手の題目につき取纏めを行なつた。本部会は前述のごとく時期時期に結論を出す方式で進められたため、刊行に当り、すでに 4~5 年を経た内容も存することになった。最近の技術の進歩は著しいものがあり、議題によつては経年の差を感じるものもある。また、取纏められていた報告は委員間での討議を目的としたため、その時の共通の関心事に集中され内容も主として数字的なものであつた。そのため、日本鉄鋼協会編集委員会の「専門外の一般会員諸氏にも理解され易いよう記述を多くせよ」との希望にそいかねるものも出た。そこで各項目とも追加調査して、経年的の変動を補うと共に、総括担当者の手により一部補筆して、できるだけ努力は試みたが、内容によつては不完全で終つたものもある。

ここに二回目の「鉄と鋼」増刊号として、特殊鋼部会の研究を取纏め報告できるにいたり、御尽力いただいた日本鉄鋼協会塩沢正一前会長、浅田長平会長を始め、役員各位に厚く御礼申し上げるとともに取纏めに当り色々御注意いただいた日本鉄鋼協会編集委員の各位に厚く敬意を表わす次第である。

部 会 長 石 原 善 雄

鉄鋼技術共同研究会特殊鋼部会報告書編集委員

部 会 長	日本特殊鋼株式会社 (本社)	石 原 善 雄
編集委員長	〃	安 藤 公 平
編 集 委 員	〃	田 阪 興
〃	特殊製鋼株式会社 (川崎)	堀 田 尚 之
〃	三菱鋼材株式会社 (本社製作所)	岡 正 雄
〃	大同製鋼株式会社 (研究)	永 田 重 雄
〃	住友金属工業株式会社 (東京)	山 田 繁
〃	日本鉄鋼協会	田 鍋 力

(委員名は会社番号順)